

地域企業共創AIエージェント実践プログラム
企業PR

北海道電力ネットワーク株式会社



ほくでんネットワーク

1. 企業の概要・特色

企業概要

北海道全域を対象に、送電・配電等インフラを担う一般送配電事業者^{※1}

※1 送電線や配電線などの電力網を管理・運用し、各所で発電された電気を使用場所まで送り届ける企業

電力の安定供給を通じて、地域の暮らし・産業・社会インフラを支える公共性の高い企業

事業の特徴

24時間365日、電力インフラを止めない安定供給が使命

設備点検・保守・災害対応など、現場業務とデスクワークが密接に連動

法令・規程・技術基準^{※2}に基づく、高い信頼性・正確性が求められる業務

※2 電気を安全・安定に届けるために定めている法律や技術上の決まりごとなど

現在直面している環境変化

設備の高経年化、自然災害の激甚化

人材不足・技能継承の難しさ

情報量の増大・業務の高度化

こうした背景を踏まえ、DX・AIを通じた
業務変革に本格的に取り組んでいます

2. 本取組みで実現したいこと

本プログラムで取り組みたいテーマの考え方

「人にしかできない判断や創造に集中できる環境をつくること」を目的に、AIを業務の“相棒”として活用することを目指しています。

その一環として、本プログラムでは以下のようなテーマに挑戦したいと考えています。



課題 01

情報収集・整理業務の高度化・自動化



課題 02

社内依頼文対応※の効率化・高度化

※他部署から届く『これを調べてほしい』『対応してほしい』といった業務依頼

現状の悩み・課題



情報が多様・大量

DXやAIの分野は日進月歩で状況が変わることから、経営ビジョン実現や環境変化・課題対応に有効な業界ニュース、技術動向、ベンダー情報など、収集すべき情報が多岐にわたる



手作業で時間がかかる

収集→整理→要約→共有の一連のプロセスに多くの工数を要している



品質のばらつき

担当者ごとに、抽出する情報の質や抜け漏れに差が生じやすい



目指す姿

AIが自律的に実行する自動化フロー(イメージ)



AIはWebから必要な情報だけを収集し、理解・要約までを担う
生成された情報は検索性の高い形で整理したうえで、共有される



人は「読む・集める」といった情報整理作業から解放され
「判断」や「構想」といった人にしかできない付加価値業務に
集中できる状態

2. 本取り組みで実現したいこと | 課題02 社内依頼文対応の効率化・高度化

現状の悩み・課題



管理・可視化が困難

他部署からの依頼対応がメール中心で、進捗や状況の管理・可視化が難しい



検索・調整に時間がかかる

過去の類似回答の探索や、適切な担当者への割り振り・調整に時間を要する



確認作業に多くの工数

管理職が回答内容の妥当性や根拠を確認する作業に、多くの工数を割いている



目指す姿

AIがサポートする効率的な対応フロー(イメージ)



理解・抽出



参照・検索



回答案生成



最終判断・確定



AIが依頼文を理解し、要件・期限・対象範囲を自動抽出
過去事例・規程を参照し、根拠も合わせた回答案を提示



ゼロからの作成や探索の手間が省け
担当者・管理職は「最終判断・確定」に集中できる状態

3. 学生の皆さんと一緒に実現したいこと

実務の実態を知っている私たちと、固定観念にとらわれない学生の皆さんの視点を掛け合わせることで、これまでにない発想や気づきが生まれると考えています。本プログラムでは、以下のテーマについて一緒に挑戦したいと考えています。

- 現場のリアルな業務課題を題材に、「AIに任せること」、「人が担うこと」を一緒に考える
- 完成度よりも、学生ならではの柔軟な発想・視点を重視し、これまで当たり前としてきた業務の再設計に挑戦する